

学生は大学の歴史教育に何を求めるか：学生アンケートから

徳橋 曜

学生は大学の歴史教育に何を求めるか：学生アンケートから

徳橋 曜¹

What do Students Want to Learn in the Historical Education of the University?: According to the survey of Students in Our University

Yo TOKUHASHI

概要

高等学校社会科の新しい共通必修科目「歴史総合」、及び選択科目である「世界史探究」・「日本史探究」の実施が次第に近づいている。しかし、実施の年度である2022年度まで残り3年足らずとなった現在においても、これらの科目が、高等学校の現場で具体的にどのように教えられることになるのか、高等学校新指導要領の示す以上の具体的な姿が見えてこない。高等学校における歴史教育のあり方を確実に変えるであろうこの変革は、大学で歴史を教える我々にとっても余所事ではなく、大学のカリキュラムにおける歴史教育の形を見直す必要もあろう。本稿では、2016年度から実施している学生アンケートの回答に基づき、高等学校における世界史教育のあり方や、そうした教育に関わる彼らの認識を検討する。

キーワード：世界史，高等学校，大学，歴史総合，主体的・対話的で深い学び

Keywords：World History, High School, University, Historical Education, Active Learning

I. はじめに

2016年12月、文部科学省中央教育審議会が公表した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下「答申」）は、小学校・中学校の社会科、高等学校の地理歴史科及び公民科について、「社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度」など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが、社会科・地理歴史科・公民科に必要であることを提言した¹。この答申を踏まえた新学習指導要領に沿って2022年から新たに施行されるのが、従来の世界史と日本史とを融合させた共通必修科目「歴史総合」と、これに接続する発展的な選択科目「世界史探究」と「日本史探究」である。

2018年に公表された『高等学校学習指導要領比較対照表【地理歴史】』では、現行の世界史A・B及び日本史A・Bを統合した理念と性格を持つものとして「歴史総合」が提示されている²。先の答申において「近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にある」ことが指摘

されたところから、2018年告示の新指導要領において、歴史総合は「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す」ものとされた。君島が指摘するように、ある意味では「歴史」という分野を越えた「社会科」的な側面を持った科目となり得るものであり、それゆえにこそ共通必修科目という設定も意義のあるものとなろう³。

しかしながら、こうした意欲的なコンセプトを持った教科に対応する体制が、現在の高等学校の現場に整っているのだろうか。近現代に比重を置き、固有の地域史よりも地域間の連携や世界の連関を重視した科目である世界史Aは、歴史総合の理念の基盤となっているものであるが、その世界史Aの実施をめぐる現状は決して理想的なものではない。歴史総合が世界史Aと同様の状況に陥らないようにするには、世界史教育を取り巻く環境に十分に配慮する必要があるだろう。

そこで本稿では、2016年度から実施している学生に対するアンケートの回答から、高等学校における世界史教育の現況や、元高校生たる大学生の世界史教育に対する認識を検討し、今後の世界史教育のあり方を考える一助とする。このアンケート調査は2016年度から継続して実施しているものであり、高等学校における世界史教

¹ 富山大学人間発達科学部

育やそれに関連した大学の歴史教育について、大学生の意識や認識に関するデータを蓄積することを主たる目的としている⁴。

Ⅱ. 方法

2019 年度も、富山大学で筆者が担当する前期授業の最終回に際して、「高校と大学の世界史・外国史教育に関するアンケート」を実施した。対象としたのは以下の人間発達科学部の講義・演習科目 5 つと教養教育の講義 1 つである。

- ①環境歴史学（2 年生以上・8 月 2 日実施）
- ②ヨーロッパ地域史論（2 年生以上・8 月 2 日実施）
- ③世界システム概論（2 年生以上・8 月 2 日実施）
- ④ネットワーク社会史論（2 年生以上・8 月 2 日実施）
- ⑤外国語文献講読（2 年生以上・7 月 30 日実施）
- ⑥西洋の歴史と社会（教養教育）（1 年生以上・7 月 30 日実施）

①は環境と人間との関わりや環境に対する意識という観点から、ヨーロッパおよびアメリカ合衆国の歴史を概観する講義である。②は中・近世イタリア史に沿って、一つのテーマを考えさせる講義で、本年度のテーマは「歴史学から見た自然災害」であった。③はウォーラーステインの近代世界システム論を援用して「西洋史」を概観しつつ、「世界史」としての視野も意識している。④は中世イタリア都市社会のソシアビリテに関する講義である。⑤は英語の専門論文を読む訓練として行っている演習形式の科目である。そして⑥は教養教育の講義であり、全学部の学生を対象とする。通常、受講者の大半は人文学部・人間発達科学部・経済学部・理学部・工学部の学生であるが、医学部・薬学部・芸術文化学部・都市デザイン学部の学生も少数ながら受講する。

本年度の質問項目は 2018 年度と基本的に同じであるが、当該授業を受講した理由を問う設問（質問 10）と、当該授業の受講中に学生自身が「考える」という行為をしたか否かを問う設問（質問 14）を加えると共に、これまで広く「大学の歴史教育」に関わる高等学校の歴史教育の有益性や関連性を問うていた設問 11 と 12 の問いかけを、「この講義」という表現で、回答者が受講している当該の講義に限定した。これは、質問の抽象性を減じると共に、講義の間の差異を確認するためである。

アンケートの結果、合計 141 名の学生から回答を得た。回答者の学年の内訳は 1 年生 83 名、2 年生 34 名、3 年生 20 名、4 年生以上 4 名である。

例年通り、質問 1a（学年）・1b（学部）・2（高等学校での世界史履修の有無）の 3 項目を最初に設定し、質問 2 で①と回答した者（世界史履修者）には質問 3～15 に、②と回答した者（世界史未履修者）には質問 16～19 に答えてもらった。

続く項目は以下である。

3) 世界史の履修状況（履修年次・履修した世界史の種類・学んだ世界史の内容）

4～6) 世界史が好きだったか否かとその理由

7～9) 世界史で受験したか否かとその理由

10) 当該講義を受講した理由

11) 当該講義を受講して、高校で世界史を学んだことが役に立ったと感じたことはあるか？（高校の世界史学習の「有用性」の意識）

12) 当該講義は、高校までの世界史教育とつながっていると思うか？（高校の世界史教育と大学の歴史教育の関連性の認識）

13) 高校や大学の授業で「歴史を考える」とは具体的にどうすることだと思うか？（主体的な学び・知識偏重ではない歴史教育のイメージや意識）

14) 当該講義で、提示された情報や資料から「考える」ことをしたか？

15) 過去の世界史学習でもっと学ばなかった点、もっと積極的に学ばべきだったと思う点はあるか？

ここまでが「世界史を履修した」という回答者を対象とするものであり、以下は「世界史を履修しなかった」と回答した者を対象とする。

16) 高校で歴史関係の科目を履修したか？

17) 高校以外の場で世界史を履修したか？

18) 大学の講義で、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはあるか？

19) 大学の講義以外で、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはあるか？

Ⅲ. アンケートの結果

アンケートの回答結果は以下である。

質問 1a) 学年

① 83 名 (58.9%) ② 34 名 (25.1%)

③ 20 名 (14.2%) ④ 4 名 (2.8%)

質問 1b) 学部

① 10 名 (7.1%) ② 48 名 (34.0%) ③ 22 名 (15.6%)

④ 14 名 (9.9%) ⑤ 36 名 (25.5%) ⑥ 3 名 (2.1%)

⑦ 1 名 (0.7%) ⑧ 6 名 (4.3%) ⑨ 1 名 (0.7%)

質問 2) 世界史を履修したか？

① 110 名 (78.0%) ② 31 名 (22.0%)

141 名中 31 名が「世界史を履修しなかった」と回答した。そのうち日本史を履修したと回答した者は 11 名であるのに対して、高等学校で「歴史」を学ばなかったと回答した者は 20 名に上る。学部別に見ると、人間発達科学部 9 名（うち日本史履修者 5 名、高等学校以外で世界史を履修した者 1 名）、経済学部 6 名（日本史履修者 3 名、うち 1 名は高等学校以外で世界史も履修）、理学部 3 名（日本史履修者なし）、工学部 11 名（日本史履修者 3 名）、医学部 1 名（日本史履修者なし）、都市デザイン学部 1 名（日本史履修者なし）である。

質問 3-a) 高校の何年次に履修したか？

※特に注記しない限り、以下の各質問について、人数の割合の分母は世界履修者の総数（110 名）である。

- ① 42 名（38.2%） ② 4 名（3.6%）
③ 23 名（20.9%） ④ 24 名（21.8%） ⑤ 0
⑥ 11 名（10.0%） ⑦ 4 名（3.6%） 無記入 1 名（0.9%）

質問 3-b) 履修したのは世界史 A か世界史 B か？

- ① 53 名（48.2%） ② 32 名（29.0%）
③ 9 名（8.2%） ④ 15 名（13.6%）

質問 3-c) どのような学習内容であったか？

- ① 70 名（63.6%） ② 25 名（22.7%）
③ 10 名（9.1%） 無記入 4 名（3.6%）

質問 3-a で①（1 年次）と回答した 42 名のうち世界史 A の履修者は 30 名（71.4%），③（2 年次）と回答した 23 名のうち世界史 A の履修者は 20 名（87.0%）である。3-a で②（1～2 年次）と回答した 4 名では、世界史 A 履修者は 2 名，B 履修者が 1 名，A か B か不明な者が 1 名であった。一方，質問 3-a で④（2～3 年次）と答えた 24 名のうち 21 名（87.5%）が世界史 B を履修しており，3-a で⑥（1～3 年次）と答えた 11 名中 10 名が A と B の両方を履修していた。ここから，高等学校におけるカリキュラムでは，1 年間の世界史履修では 1 年次に世界史 A を履修させ，受験に世界史の必要な「文系」の生徒には，2～3 年次の 2 年間で世界史 B を履修させる傾向を看取できる。3 年間で A と B の両方を履修したと答えた 10 名は，おそらく 1 年次に世界史 A を，2～3 年次に（受験用に）B を履修したのであろう。

質問 4) 世界史という科目が好きであったか？

- ① 30 名 ② 34 名（①と②の合計 58.2%）
③ 32 名 ④ 13 名（③と④の合計 40.9%）
無記入 1 名（0.9%）

質問 5) 好きであった理由

※分母は「好き」・「どちらかといえば好き」と回答した 64 名。

- ① 37 名（57.8%） ② 3 名（4.7%） ③ 24 名（37.5%）

質問 6) 嫌いであった理由

※分母は「嫌い」・「どちらかといえば嫌い」と回答した 45 名。

- ① 11 名（24.4%） ② 25 名（55.6%）
③ 7 名（15.6%）

これ以外に①と③の 2 つを挙げた者が 1 名，①～③総てを挙げた者が 1 名いた（合計 4.4%）。

質問 7) センター試験で世界史を受験したか？

- ① 38 名（34.5%） ② 71 名（64.5%） 無記入 1 名（0.9%）

質問 8) 受験した理由

※分母は「受験した」と回答した 38 名。

- ① 16 名（42.1%） ② 20 名（52.6%） ③ 1 名（2.6%）
無記入 1 名（2.6%）

質問 9) 受験しなかった理由

※分母は「受験しなかった」と回答した 71 名。

- ① 13 名（18.3%） ② 9 名（12.7%）
③ 40 名（56.3%） ④ 8 名（11.3%）

これ以外に②と③の 2 つを挙げた者が 1 名（1.4%）いた。

質問 10) 当該講義を受講した理由

- ① 68 名（61.8%） ② 19 名（17.3%） ③ 8 名（7.3%）
④ 13 名（11.8%） 無記入 2 名（1.8%）

質問 11) 当該講義で世界史学習が役立ったか？

- ① 41 名（37.3%） ② 66 名（60.0%） 無記入 3 名（2.7%）

役立ったと感じた理由

※以下，自由記述については基本的に，用字等は回答の原文のままであり，[] の部分は筆者が補った。

- ・高校で習った範囲についての授業（宗教改革，革命）が，基礎的な知識がある分，理解が楽だった。
- ・レポートを書く時，高校の世界史 A の史料を使用した。[その結果として] 世界史に対する興味を持った。
- ・高校で習ったものがより深化した。
- ・宗教改革など，大まかなことは大体理解できたこと。
- ・ある程度知識があったことで，人物や出来事を区別することができた点。
- ・高校の世界史で出てきた単語や事実関係が登場したから。
- ・人物名や地名などの予備知識があったこと。
- ・高校での広く浅い教育が大学での狭く深い講義になる。
- ・講義で説明される歴史上の事柄についてある程度の知識があったこと。
- ・プリントにある単語や先生の説明が理解しやすかった点。
- ・レポートを書くときになんとなく背景が理解できていた。
- ・高校の頃に学んだことが思った以上に話に出て来た。
- ・用語をあらかじめ知っていたから。
- ・ある程度用語を理解していたため，内容が入ってきやすかった。
- ・おおまかでも流れがわかっていると，細かい話，地図にまで目をくばれるので楽しい。先生の話も理解できるからより楽しいです。
- ・出てくる用語を聞いたことはある，という状態になっていたから。
- ・習ったことを思い出しながら話を聞いているとわかりやすかった。
- ・大体の流れが把握できていたため，内容の理解がより容易になったと思う。
- ・ある程度の出来事の時系列を自分の中で作れたこと。
- ・文明の起源やその他のことについて深く知ることができたから。
- ・キリスト教についての予備知識。
- ・高校で習った用語等が出てきた点。
- ・知っている内容が多くあり理解しやすかった。
- ・この講義はとても詳しいところまで説明してくれるから，高校の基礎知識がなかったらついていけなかったと思うので，役に立った。
- ・宗教改革等については既存の知識があり，役立ったよ

うに思う。

- ・王朝の名前が出てきても、昔の知識でなんとなくイメージがつくこと。
- ・大まかな流れや事柄がわかっている状態だったので、細かな年代のことについても、こういった歴史の背景があるかイメージしやすかった。
- ・出来事や人物名にききおぼえがあった点。
- ・高校で学んだところがこの授業でも出た点。
- ・説明が理解しやすかった。
- ・講義の基盤となる時代背景などの知識が頭の中にあったので、それと照らし合わせることができた。
- ・地理で少し覚えていたことが役だったことがある。
- ・宗教改革からの流れをおぼえていて役に立った。さらに、レポートの際にも事前に世界史を学習していたので、宗教改革のところでは倫理で学んだ知識も役に立った。
- ・高校で学んだ知識が内容に出てきた点。
- ・人間が繰り返し行うことを知ることができる。過去の考えを知ることができる。
- ・知っている単語や人名が多く、講義を受ける手助けとなった。
- ・学んだことが出てきた。
- ・本を読んでいて、知識不足のため整合性が取れず、苦労したことがあったが、それが解決した。
- ・内容が被っている点。

質問 12) 当該講義と高校までの世界史教育の関連

① 63 名 (57.3%) ② 43 名 (39.1%) 無記入 4 名 (3.6%)

関連があると思う理由

- ・高校までの世界史の内容と共通しているところがある。
- ・高校で詳しく習わなかったヨーロッパの古代について知れた。
- ・高校ではほとんど知ることができなかった歴史の細部をほんの少し知ることができるという点。
- ・高校で習ったところを掘り下げているから。
- ・やった内容とほぼ同じであったから
- ・触れている部分。
- ・高校でも、その出来事だけでなく、歴史の流れを読みとっていたから
- ・上記 [?] に加え、高校よりも詳細に説明されていたから。
- ・世界史上の出来事をより深く学べるところ。
- ・高校での予備知識があるため、内容が入ってきやすくなる点。
- ・高校で学んだことが講義中に出てきて、そのことをより詳しく説明されていること。
- ・高校の内容をすごく掘り下げていると思う。
- ・高校の世界史は内容が浅めだったが、この講義では深く掘り下げられている。
- ・語句が高校で学んだことの中に多くあったから。

聞いたことのある名前（ナポレオンなど）が出てきた。

- ・高校では歴史の流れを一通り覚えて、この授業で深い内容まで知ることができた。
- ・高校では宗教改革の枠組みしか習えないが、この講義ではヨハン・テツェルの免罪符販売など、細かいところや風刺画の面白さに気づけるかどうかとして、世界史を習っていることでつながる。
- ・高校で知識の下積みがあったほうが、考察する余裕があると思う。
- ・高校で学習したことを局所的に詳しく取り扱っていた。
- ・高校で習った世界史をより深く掘り下げている点。
- ・高校で習ったことをより深く学んだから。
- ・高校で世界史 A のみ受講だったため、あまり深く内容に言及していないが。
- ・もっと深掘りしていくことをしているから。
- ・高校世界史で学んだ内容が含まれていた。
- ・高校までの内容と接点はあまりなかったが、全体として見たときに流れがあったから。
- ・高校で学習した内容も一部入っていたから。
- ・高校で勉強したことをより詳しく知ることができたから。
- ・高校で習った用語等が出てきた点。
- ・内容が発展的になっているから。
- ・世界史の流れは高校でならったので、この講義も一緒だということ。
- ・質問 11 でも書いたように高校の世界史で習った内容が出てきたから。
- ・高校では大枠を学ぶ。この講義では、それを用いて深掘りする。
- ・高校までで学んだ単語が時代背景を通して結ばれたから。
- ・高校で学んだ知識に加え、さらに詳しい話があり、つながっていると思う。
- ・高校で習った世界史をあまり覚えていなかったもので、この講義がわかりづらかった。
- ・革命など知っている単語があったから。
- ・世界史で学んだ知識を用いて、事例についても考えられたから。
- ・内容が同じな点。
- ・内容がほぼかぶっていたから。
- ・細かい点が高校の世界史の延長にあったように思う。
- ・世界史で学習した封建制が当時の人々の人間関係に影響を与えたことを踏まえ、人的ネットワークが家族、近所の人々の単位ではどうなっていたかを考えるきっかけになった。
- ・世界史 B の教科書にあった内容があったと友達から聞いた。
- ・ベネチアの衛生感覚の話など、当時の人々の考えがわかるとより世界史理解が深まるから。「歴史は現代人の

感覚でふれることに意味はなく、当時の人々の考え、状況から理解する」という言葉を聞いたことがあり、まさにこれだと思った。

- ・高校で学んだことが背景として出てきた点。
- ・内容が一部被っている（より深くなっている）点。
- ・レポートを作成した際、友人から借りた世界史の教科書と納得する点やつながる点が多かったから。
- ・高校で学んだことが、より具体的に学ぶことができた。
- ・文章に出てくる時代背景をおさえる必要がある。
- ・内容がかぶっている箇所があるから。
- ・高校での知識からより広く深くという感じだから。
- ・高校で習った単語がいくつか出てきた。
- ・内容が被っている点。
- ・高校の教員が中世ヨーロッパの専門だったので、よく聞かされていたから。
- ・高校までの範囲をより深く学んでいるという点。
- ・内容は類似しているが、高校までは大学入試に向けてであり、今回ののは違う観点から見た。
- ・やった覚えのある単語があった。
- ・点数をとるために「単語」として様々な歴史を暗記するのが高校教育だった。しかし大学教育では、それらの背景について再度学べるため、より理解を深められた。

関連がないと思う理由

- ・つながりは特に見えなかった。強いて言えば、高校までは生徒に世界の歴史に対する共通の認識を与えようとする意味合いを、大学では客観的に出来事を追っていく意味合いを感じた。
- ・内容が違ったから。
- ・この講義では「森」というのがキーワードであると私は考えている。しかしながら高校の時にそのようなワードを聞いたことがないため。
- ・高校の世界史とは内容が違うから。
- ・習う範囲が違ったから。
- ・独学で世界史を勉強したためわからない。
- ・高校では歴史の流れを学ぶだけで、その出来事にはどんな意味があったのかや、他の国（あるいは宗教）の視点に立つとその出来事がどう見えるのかを学ばなかったから。
- ・高校1年次に習っていたため、ほとんど内容を忘れていたから。
- ・高校の世界史Aでは一部の地域（主に東アジア諸国）と日本の関係性を学んでいたため、この講義との関連性は低いと思った。
- ・内容が全く異なっていたから。
- ・高校でやったときよりもより専門的だったから。
- ・世界史Aしかやっていないので、内容が繋がらない。
- ・高校の世界史では流れを重視して授業を進めていた記憶があるが、この授業では中世を中心にしていたので、深い知識が必要で、あまり高校までの内容は役に立たなかった。

- ・Aの範囲では聞いたことのある名前がぜんぜんでてこなかったため。
- ・高校1年のときしか世界史を学んでいなかったのもはやどんなことをしていたか覚えていないから。
- ・高校で3年間世界史をやった人でないといけない。何を言っているのか分からない。
- ・高校の時と比べかなり深く掘り下げられているので、同じ世界史とは思えないほど難しかった。
- ・直接的にはつながってないと思った。知らないことだらけだったので……
- ・世界史Aを浅く広くならったので、この講義の年代・地域が限定された深い話とはあまりつながりが感じられない。
- ・習ったことが一通りの流れの部分であったため、詳しい内容の説明をされると全くわからなかったから。
- ・講義と時代が違いすぎる。
- ・高校でやったことを覚えていないのでわからない。
- ・だいたい内容が専門的で、高校までの授業と遠いように感じたため。
- ・高校の世界史で何をやったか覚えてない。
- ・習った内容を覚えていないから。
- ・高校での世界史Aはほとんどと言っていいほど内容にふれておらず、世界史教育が本来どのようなか分からないから。
- ・自分が学んだところとあまりかぶっていなかったから。
- ・年代が全く違ったから。
- ・そもそも高校で世界史を学んだかどうかすら思い出せないほど記憶があやふやなのでわからない。
- ・習った内容が途切れ途切れで、関連性をいまいち感じないから。
- ・高校での世界史教育の内容を覚えていないから。
- ・高校ではセンターのために覚えるだけで学問として学んでいなかったから。
- ・宗教の授業を受けている感覚。
- ・高校でやった内容を全く覚えていないため、よく分からない。
- ・高校で学んだところと共通の部分がわからないため。
- ・高校のときの世界史の授業についてほとんど覚えていないから。

質問13)「歴史を考える」とは？

- ・関連づける。
- ・今残っている文化や宗教、戦争の成り立ちを知ること、現在につながる問題をもう1度考えること。
- ・いつ何があったのかではなく、その出来事にはどのような意味があり、人々や国にどんな影響を与えたのかを資料に基づいて考えること。
- ・覚えるだけでは歴史で何が具体的に起きたのか理解したとは言えないから。
- ・覚える作業は必ず必要だと思う。

- ・過去と現在の違いを友人と話し合ったり、自分で考える。
- ・レポートを書くこと。
- ・過去において発生した出来事をただ憶えるだけでなく、なぜその出来事が起きたのか、その経緯などを考えること。
- ・過去に起こった出来事と最近の時事的な問題・話題を結びつけて考えるようにすること。
- ・過去の出来事が今現在どのような影響を与えているのか考えること。
- ・過去の歴史を振り返ったり、当時の人々の立場になったり、自分ならどうしたかを考えるなど、一種の道徳のような要素を含んだものだと思う。
- ・なぜその事象が起きたのか考える。
- ・「なぜこの戦争が起きたか」など原因を考える。
- ・答えを与えられるのではなく、様々な資料を読んでその答えにたどりつくか、あるいは自分で答えを見つけること。
- ・このことが起こった、ということだけでなく、なぜ起こったか、その後どうなったかを、人々の生活や社会をみながら、考えてみる。
- ・「この出来事が起こった結果こうなった」をまず生徒に考えさせる。
- ・細かい知識（人命や年号など）を詰め込むのではなく、対立する立場を軸として大まかな流れをつかむことで、できごとの因果関係をはっきりさせること。そうすることで歴史的事象と現代の問題との対比ができると思う。
- ・事実を知る前に次に何が起こるかを想像して学んでいくこと。
- ・時代ごとにその時代の人々の生活を知ること、考え方も理解し、現代の私たちとの考え方を比較することで、歴史上の成功や失敗から学び、生かせることを探していくこと。
- ・「どうしてこの人物は戦争を起こしたのか」などの問題を、時代背景、人物像などを参考にしながら考えること。
- ・時代背景や当時の人々の心情などを考察すること。
- ・どうしてこの出来事が起こったのかという経緯を学ぶこと。
- ・どうしてその出来事が起こり、ある人がその判断をしたのかについて考える。そこから想定できることを現代に活かす。
- ・自分で事前学習をすることで深い学びができると思う。
- ・自分だったらどうするかを考えたり、事実から何が言えるかを考えたりすること。
- ・調べ学習。自ら調べて発見し、認識すべき。
- ・生徒が過去の資料から歴史的事実を推測する。
- ・世界史を暗記科目としてではなく、時代背景なども意識すること。

- ・センター試験のために勉強するというやり方を変える。
- ・その人の思想や思いを考えて、次どのような出来事が起こるか考えること。
- ・その時代に自分の興味のあるものを調べまとめる。グループごとにそれを発表し合う。その後、グループ内でさらに討論する。
- ・どうしてその出来事が起こったのか時代背景をもとに学ぶこと。
- ・その当時の社会情勢を知った上で、どうしてその事象が起きたのかを自ら考えること。
- ・ただ暗号のように丸暗記するのではなく、事柄を結びつけながら考えていくこと。
- ・ただ単に戦があったことだけを覚えるのではなくそこに至った経緯を例えば、領地が少なくなったからなどと考えることであると思う。
- ・ただ出来事を覚えるだけでなく、その歴史的意義を自分なりに考えてみる。
- ・単純に出来事・年号・人物を暗記するのではなく、その出来事の背後にある国家・出来事・宗教などを探求することだと思います。交易などもこの文化が流入したかに関係すると思う。これらが楽しいと思えば、「考える」ができると思います。
- ・知識の確認だけでなく、授業内で論述問題などを課し、添削などでフィードバックを行う。
- ・出来事の背景や原因をつきとめる。
- ・1つ1つの出来事に対してなぜそれが起こったか、なぜその場所・時代で起こったかなど疑問を持って考えること。
- ・歴史の出来事について、子供にどう思うか意見を問う。
- ・出来事の暗記ではなく、なぜおこったのか原因を考えること。
- ・当時起こったことを当時の環境や情勢などをふまえた上で理解すること。
- ・当時の政治的・思想的要素から、どのようなことが起こったかを理解する。
- ・当時の人々がどういった考えで動きをむしたのか、またどんな状況に置かれ、どうせざるを得なかったのかなど、人々の視点から考える部分を作っていくことかなと思う。
- ・何年にどこでどのような出来事が起こったのかを暗記するのではなく、その地形の特徴や、その時代の背景を考えて、理解しながら身につけていくこと。
- ・例えば、何かの出来事が起こった時に、ただ覚えるのではなく前後の時代背景からなぜそれが起こったのか考える。
- ・なぜこの出来事が起こったのか理由を考えて掘り下げていく。
- ・なぜこのような出来事が起こったのか、このような事態を防ぐにはどうしたらいいか、歴史の過ちをどうやっ

て未来に生かせばよいのか、これらを考えること。

- ・なぜこのような出来事が起こったのかを考察する。
- ・なぜこの歴史は歴史として残ったのか、また残らなかったのか、なぜこのように歴史に残ったのか、を時代背景に即して考えていくこと。
- ・なぜ戦争がおわったのか、おわらなかったのか、おこったのかを考えさせる。
- ・なぜ出来事が起きて、どのような変化がもたらされたかについて考えること。
- ・なんでこんなことが起きたのか、など、その時代の背景などをもとにつながりをみつけること。
- ・年号や人名だけを覚えるのではなく、なぜこの方策を取ったのか、なぜこの戦いは起こったのか、など出来事の原因を考えること。
- ・年号や人名、出来事を丸暗記ではなく、なぜそのような行動に至ったかを追求するということ。
- ・一つの出来事が他の人物や国とどう関係していくかを考えるということ。
- ・なぜ〇〇の出来事が起きたのか、何とつながりがあるのか、考えること。
- ・見方が人によって違うような歴史上の出来事を議論する。
- ・自ら興味を持ち調べる。
- ・みずから、授業と関連があることを事前、事後に調べたりすること。
- ・昔の出来事の良い点、悪い点を知り、今どのように改善されているか、どこを改善するべきかを見つめること。
- ・昔起きた出来事を知り、今につなげるように考える。(戦争など)
- ・物事の起こった経緯をひもづけていくこと。
- ・そもそも歴史とは強者が「つくる」ものという認識なんですけど、ゆえに前後の歴史との整合性を考えたりすることも必要になってくるのかなーと思います。
- ・歴史上のできごとが、現在にどのような影響をあたえているか考えること。資料等から、なぜそのできごとが起こったのかを推測すること。
- ・歴史と歴史をつなぎ合わせて、過去の失敗がどう未来につながっているのかを考えること。
- ・歴史においてなぜそのようになったかなど疑問に思ったことをみつけだし、研究して自分なりに答えを導き出すことだと考える。
- ・歴史においては「もしも」という仮定は意味がないとよくいうが、大きな事件に至るまでの過程における小さな分岐点で、異なる考え方や行動を起こしていたらどうなっていたらどうかということを、根拠を交えて考察させることは、批判的思考力の養成になるのではないかと考える。
- ・歴史の背景にある思惑や信条、仕組みについて理解をすることで、当時の人達の思考を考える。
- ・歴史の流れを知り、その流れがどうして起きたのか考

えること。

- ・歴史をいろんな角度から見て、今の世の中に反映していくこと。
- ・歴史を知ることによって現代の国々の関係などを理解する、結びつける。
- ・歴史を当時の時代背景とからめながら理解すること。
- ・歴史を年代ごとに縦でみていくことに加え、同時期に起こったことについての横もみながら、因果関係について考える。
- ・歴史上で起こったことなどを聞いて、その時代の状況や周りとの関係性などからなぜそれが起こったのかなどについて考えること。
- ・歴史上の出来事から、今起きている世界の出来事について「考える」こと。
- ・歴史上の出来事を覚えるだけでなく、その出来事の時代背景を考える。またその出来事が後に与えた影響についても考察を試みる。
- ・歴史的な事実を知った上で、そのできごとをどのように捉えるかは、個々の「考え」によるものだと思う。
- ・歴史的な事実から、因果関係を模索し、道筋を立て、全体像を理解すること。
- ・歴史的な事実から起こったきっかけを考えるなどという思考。
- ・歴史的な事象がなぜ生じたのか、それが当該地域の人々にどのような影響を与えたかについて教師が教えるだけでなく、生徒が実際に資料館などのフィールドワークを行なってそれをまとめる作業をすること。
- ・歴史的な事象の原因・理由を考えること。
- ・まず歴史を知り、その時代背景には何があったのかを考えること。
- ・「歴史上の言葉」を問う試験ではなく、その事件や問題が発生した原因、経緯を問う試験にすべきだと思う。
- ・なぜそのような歴史がうまれたか背景を探ること。
- 歴史から今、現代への過ちなどを教訓にすること。
- ・歴史上の人物の改革などを学ぶ際に「なぜこのような改革をこの人は行おうと思ったのか」など、その人物の視点から考え、学ぶこと。
- ・歴史的な事実から様々な時代の人々の思想を理解し、自分たちの社会のありかたの理想について論じること。
- ・歴史的な資料などをもとに、出来事の背景について考えること。
- ・歴史を見てみると、その時代時代において、暮らし方が違う。そしてその時代もやがて終わり、新時代がやってくる。そういうような背景を考え、繋げることが大切であると思う。
- ・歴史的な事象がその後どのような影響を及ぼした感度を考えるということ。
- ・「～について論述し、自己の見解を述べよ」的な問題をつくる。
- ・分からない。

質問 14) 当該講義で「考える」ことをしたか？

① 22 名 (20.0%) ② 84 名 (76.4%) 無記入 4 名 (3.6%)

具体的な内容

- ・わからない人名やことばを調べ、つながりを考えたから。
- ・日本や中国、ヨーロッパがお互いの皿などの絵をまねし合ったことと現在の「パクリ」について。
- ・疫病の蔓延による社会不安はどの程度のものなのかを想像した。
- ・歴史背景を考える。
- ・十字軍が与えた交易・文化面による古代ヨーロッパ文化の再発見を分かったこと。
- ・資料の著者はどういった考えをもっているのか読む。
- ・災害が神の裁きである、ということの理由
- ・資料から得られた情報から少し調べた。
- ・どれとどれの事件がつながっているのかなど、それぞれのわずかな関係性をみつけたりしたから。
- ・関係する事柄を深く調べてみた。
- ・宗教改革の起こる経緯。
- ・人口が移動した理由を考えた。
- ・地図や図を見て考えた。
- ・レポートにて。
- ・実際に当時書かれた資料を見ることで、その作者が置かれた状況が理解できた。
- ・宗教改革・対抗宗教改革の裏にあった背景。
- ・どうして森の中に栄えた集落があるかなどについて考えた。
- ・絵画などの意味を自分なりに考察した。

質問 15) 世界史学習を振り返って、学びたかった点や積極的に学ぶべきだったと思うことはあるか？

① 40 名 (36.4%) ② 68 名 (61.8%) 無記入 2 名 (1.8%)

具体的な内容

- ・中世についての基礎知識を学びたかった。
- ・高校の世界史は「ハンムラビ法典」という単語しか記憶にない。せめて何世紀はどこがどのような感じだったかくらい覚えておきたかった。
- ・近現代史
- ・思想と文化
- ・個人的にはポーランドやロマノフ朝など東欧に興味があり、バルト海交易などの内容をもっと知りたい。また、ロシアがウラジヴォストクを得た後、日本とどのような貿易があったかなど。
- ・キリスト教時代について
- ・ただおぼえるだけでなく、考える学びをしたかった。
- ・そのときに（テストのときなど）覚えるだけでなく、知識として止めておきたかった。
- ・中世
- ・各時代の為政者の政策における意図が分かりづらい時があった。
- ・文化や生活様式など。

- ・興味のある時代を見つけること。
- ・近現代史にもっと力を入れて欲しい。
- ・もっと高校の時に世界史の先生に質問をするべきだった。
- ・もっと年号を覚えるべきだった。
- ・文献を実際に読んでみる。
- ・産業革命以降を詳しく学びたかった。
- ・覚えることに終始していたので、もっと主体的に覚えようとすればよかったと思う。
- ・文化や書物について
- ・自分はあまり歴史が好きではなかったが、もっと勉強していれば、自分の世界観が広がっていたと思う。
- ・政治的な事柄だけでなく、中世・近代の地域社会・文化も学びたかった。
- ・名前や事柄を暗記するテストではなく、時代背景なども考慮したテストなら考えながら学べたと思う。
- ・出来事の流れをもっと掴むべきだった。単体で覚えていたのしんどかった（ちゃんと授業を聞いていなかった）。
- ・政治背景や文化
- ・古代から学習しなおしたかった。ギリシャのあたりから。
- ・歴史上でてくる人物の人物や性格など細かなところを学びたい。
- ・世界のニュースを理解する上で、現在に近い 1900 年代の世界史をもっと詳しく学びたかった。
- ・近代世界史(18～20 世紀)は高校で学ばなかったため、勉強してみたかった。
- ・広く浅くの学習だったから、もっと詳しく学びたかった。
- ・世界の横のつながりをよく考えればよかった。
- ・第 1, 2 次世界大戦
- ・もっと楽しみながら学習したかった。
- ・暗記して覚えるのではなく、意味を理解して覚えるべきだった。
- ・第 2 次世界大戦あたり。
- ・全体的にもっと詳しく知りたい。
- ・事象をもっと覚えていれば、そこからさらに「考える」余裕があったと思う。
- ・西洋に広がっていた様々な勢力どうしの争いについて学びたかった。
- ・世界史の基本的な知識をもっと学んでおくべきだった。

※以下の分母は「世界史を履修しなかった」と回答した 31 名。

質問 16) 高等学校で歴史の科目を履修したか？

① 11 名 (35.5%) ② 20 名 (64.5%)

質問 17) 高等学校以外で世界史を履修したか？

① 2 名 (6.5%) ② 29 名 (93.5%)

質問 18) 大学の講義で世界史を学んでおけばよかった

と感じたことはあるか？

① 7 名 (22.6%) ② 24 名 (77.4%)

具体的な内容

- ・古代あたり
- ・この授業や他の外国文献などを読んで興味を持つとき、もっと知っておけば、さらに深く知れたかなと感じることはある。
- ・先生方の理論に基づいた意見が聞けた。
- ・時代の順番すら分らない
- ・大学の講義の内容が理解できなかったから。
- ・歴史関係の話についていけなかった。
- ・人の動き方や考え方の変化がうつりかわっていくのが面白いと感じた。

質問 19) 大学の講義以外で世界史を学んでおけばよかったと感じたことはあるか？

① 5 名 (16.1%) ② 26 名 (83.9%)

具体的な内容

- ・世界史を学ぶことで外国の国々の文化が少しでも理解できると感じたから。
- ・外国から来た人にインタビューをしたとき、〇〇から来た、と言われても、場所も歴史も詳しく知らないため。
- ・小説の設定などで世界史から引用されている物を読むときに、知っていたらさらにおもしろいのだろうと感じた。
- ・歴史的なものを題材にしたテレビ番組を見るとき。
- ・現在のヨーロッパはどのようにしてできあがったのか知りたくなったとき。

Ⅳ. 考察

以上の結果から、2018 年度の調査結果も参照しつつ、いくつかの点について若干の考察を行う。

まず世界史を履修しなかったと回答した学生の割合に目を向けると、2017 年度は 21.7% (回答者 60 名中 13 名)、2018 年度は 22.9% (同 96 名中 22 名)、本年度は 22.0% (141 名中 31 名) である。アンケートへの回答を見る限り、毎年、回答者の 2 割以上の「未履修」者がいる。回答者の学年を見ると 1 年生 17 名 (うち経済学部 4 名、理学部 1 名、工学部 10 名、医学部 1 名、都市デザイン学部 1 名)、2 年生 9 名 (うち人間発達科学部 7 名、理学部 1 名、工学部 1 名)、3 年生 4 名 (うち人間発達科学部 2 名、経済学部 1 名、理学部 1 名)、4 年生 1 名 (経済学部) となっており、人間発達科学部の 2 年生全員と 3 年生のうち 1 名を除いて、総て教養教育科目の受講者である。世界史未履修が問題視されて以来、高等学校の側も十分に配慮するようになったはずであるにもかかわらず、これだけの数の学生が履修していないと回答している点については、実際に履修しなかったのではなく、履修したことを忘れていない可能性もある。確かに、1 人の人間発達科学部 2 年生は高等学校での世界史の履修年

次が分らず (「その他」と回答)、履修した科目に関する質問 3-b で③ (A か B か分らない) と回答した上、質問 12 の自由記述で「そもそも高校で世界史を学んだかどうかすら思い出せないほど記憶があやふやなのでわからない」と記している。また高等学校 2 年次で世界史 A を履修したと回答しながら、学んだ内容については「覚えていない」と付記した工学部 1 年生もいる。

しかしながら、「未履修」との回答者の中に、履修したことを忘れたに過ぎない者が混在していたとしても、その割合を確定することはできない。いわゆる「理系」の学生であるから世界史に関心がなく、それ故に履修の事実を忘却したと断定できる根拠もない。特に 1 年生の回答者については、仮に世界史という科目に関心がなかったとしても、自分が「世界史」という科目を履修したことまで短期間で完全に忘れるものであろうか。少なくとも日本史を履修したと回答した学生達は、世界史を履修しなかったことも記憶していると考えられる。

実際、大学受験に必要な科目を考慮した高等学校のクラス分け等の事情によって、世界史を履修しなかったという可能性も大きい。筆者は毎年、「世界史を履修していなくとも社会科教員免許の取得は可能か」、という趣旨の質問を複数の学生から受ける。また、本年度のアンケートに答えてくれた学生の一人は、自分は世界史も勉強したかったが、通っていた高等学校のカリキュラム上、世界史の履修が不可能であったとアンケート実施後に明言した。

これに関連して、質問 9 において、世界史を履修した大学受験科目として世界史を利用しなかった理由として、③ (受験する必要がなかったから) と回答した者の所属学部を見ると、回答者 40 名中 16 名 (40%) が工学部で、人文学部 1 名、人間発達科学部 11 名、経済学部 4 名、理学部 5 名、薬学部 1 名、芸術文化学部 2 名であった。2018 年度の調査では同じ質問に対して③と答えた 36 名中、人間発達科学部 7 名、経済学部 4 名、理学部 8 名、工学部 10 名 (27.8%)、薬学部 1 名、芸術文化学部 1 名、都市デザイン学部 5 名であった。経済学部は「文系」と認識されることもあるが、統計学を始めとする「理系」の知識を要する学問分野である。富山大学の平成 31 年度入学選抜要項 (2019 年 4 月入学者即ち現 1 年生を対象としたもの) によれば、経済学部の入試科目においては、各学科の個別学力試験について数学関係と英語関係の科目から 1 つを選択することになっていた。センター試験に関しては地理歴史から 1 科目の選択が必須であるが、地理を選択すれば、歴史は必要ない。工学部についても、専門学科・総合学科卒業者入試と一部の後期日程入試を除けば、個別学力試験の科目として前期日程では理科関係の 1 科目と数学との 2 教科が、後期日程では数学が求められ、センター試験では地理歴史・公民から 1 科目を選択すれば良かったので、当然ながら受験科目としての世界史は不要であった⁵。

ここから、「未履修」と回答した者の人数が相対的に経済学部と工学部に多い点には、受験での歴史科目の必要性が影響していると考えられる。本年度は人間発達科学部でも「未履修」の回答者が9名と多かったが、同学部の回答者数48名に占める割合は18.8%である。これに比して経済学部では総数22名中6名(27.3%)、理学部では14名中3名(21.4%)、工学部では36名中11名(30.6%)であるから、やはり経済学部と工学部の「未履修」回答率が特に高い⁶。人間発達科学部には「文系」と「理系」の両方の学生が入学してくるため、そのうちの「理系」の学生に未履修者が多く含まれた可能性もある。その一方、「理系」でありながら、理学部の「未履修」回答者率が経済学部・工学部よりも低い理由は判然としない。理学部の入学試験方法を工学部のそれと比較しても、受験科目として世界史の重要性が高くなる条件は見出せないからである。

次に、質問3-cで①(網羅的に学習した)と答えた70名のうち世界史Aの履修者は26名(37.1%)である。さらに、②(18世紀以前を主に学習した)と答えた25名のうち世界史Aの履修者は17名(68.0%)に及ぶ。逆に世界史A履修者全体(53名)の内訳で見ると、質問3-cに①と答えた26名は全体の49.1%、②と答えた17名は32.1%、③(19世紀以降を主に学習した)と答えた者は9名(17.0%)である(加えて前述の「覚えていない」と回答した者が1名いる)。同様の傾向は昨年度の調査でも確認されている。世界史Aは本来、現行の教育指導要領の目標にあるように、「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき……現代の諸課題を歴史的観点から考察させる」⁷科目であるが、履修者の認識を見る限り、世界史Aの目標が高等学校の現場で尊重されているとは思われない。

その主たる要因も大学受験にあることは、容易に推測される。受験に必要な世界史はBであり(入学試験でセンター試験の点数を評価するに際し、世界史A・日本史Aを対象外とする大学もある)、Aは必修科目である世界史を全生徒に履修させる手段なのである⁸。センター試験で世界史を受験した理由(質問8)として②(高校での履修の都合上、世界史を選択せざるを得なかったから)を挙げた回答者全員が、BかA・B両方の履修者であること、逆に受験しなかった理由(質問9)として③(必要がなかった)と答えた34名のうち32名がA履修者であることも、この推測を裏付けている。

勿論、生徒の進路によっては高等学校が世界史を学ぶ最後の機会であるから、Aであってもできる限り網羅的に教えたい、という意図がカリキュラムに込められている場合もあるだろう。しかし、そうであったとしても、結果として、質問6(世界史が嫌いだった理由)で②(覚えることが多くて面倒だったから)を選ぶ学生が増え、学生自身の認識としても質問11～15への自由記述の回答にあるように、「高校では歴史の流れを学ぶだけで、そ

の出来事にはどんな意味があったのかや、他の国(あるいは宗教)の視点に立つとその出来事がどう見えるのかを学ばなかった」、「世界史Aを浅く広くなかった」、「高校での世界史Aはほとんどと言っていいほど内容にふれておらず、世界史教育が本来どのようなか分からない」、「広く浅くの学習だったから、もっと詳しく学びたかった」といった辛辣な指摘が見られることになる。そして、特に1年次に世界史Aを履修した事例では、「高校1年次に習っていたため、ほとんど内容を忘れていた」、「高校の世界史で何をやったか覚えてない」、「高校でやったことを覚えていない」、「高校での世界史教育の内容を覚えていない」、「世界史の授業についてほとんど覚えていない」という感想が並ぶことにもなる。

先に「未履修」について、履修した事実を忘れてしまった学生が「履修しなかった」と回答した可能性に言及したが、実際に履修したか否かということは、ここでは大きな問題ではない。履修していたとしても、履修していないという事実誤認が生じるほどに、学生本人の認識に世界史学習が痕跡を残していないことを問題視すべきである。必修科目として単に一律に学ばせるという形では、元々、歴史に関心のない(あるいは受験に歴史は関係ないと思っている)生徒の意識を一層、世界史学習から逸らしてしまうことにもなろう。それが「内容についてほとんど覚えていない」という回答結果にもつながる。今回、履修年次の回答に「1年前期のみ」と付記した人間発達科学部3年生が1名いた。当該学生は質問4に対して「どちらかといえば嫌いだった」と回答し、その理由に②(覚えることが多くて面倒だったから)を選んだ上で、「あまりにもかけ足だったから」という理由を追加している。そして、質問15でも「もっと楽しみながら学習したかった」と、高等学校での世界史学習を振り返っているのである。回答によれば、この学生は世界史Aを履修し、「19世紀以降を主に学習した」とのことであるので、学習内容は学習指導要領に沿ったものであったと言える。しかし、生徒に上記のような感想を持たせてしまう結果となってしまっているのでは、その教育効果は減じてしまうであろう。

このように、高等学校における世界史のカリキュラムや履修状況には、大学受験における科目としての必要性が影響していることが推測され、受験に関係ないならば、履修は必須ではないという思考は、生徒にも高等学校の側にも根強く存在していると思われる。どれほど工夫し、理念を込めた科目を設けても、「受験に関係ない」という理由で軽んじられれば、教育効果は期待できない。確かに大学入試は高等学校の現場には大きな圧力となり、これへの対応が第一となりがちなる事情は理解できる。であるからこそ、日本学術会議史学委員会高校歴史教育に関する分科会は、2016年5月に『『歴史総合』に期待されるもの』と題する提言を公表した際、この新設科目に大学入試において然るべき位置を与えなければ、必須化

しても軽視される可能性を指摘したのである⁹。

こうした実情については、大学受験のためだけに勉強する学生自身の姿勢にも原因があろう。しかし、そうした学生の中にも、大学に入ってから自分の学習姿勢に問題があったことに気づく者はいらる。アンケートの自由記述において、「そのときに（テストのときなど）覚えるだけでなく、知識として止めておきたかった」、「覚えることに終始していたので、もっと主体的に覚えようと思えばよかったと思う」、「高校ではセンターのために覚えるだけで学問として学んでいなかった」、「自分はあまり歴史が好きではなかったが、もっと勉強していれば、自分の世界観が広がっていたと思う」、「政治的な事柄だけでなく、中世・近代の地域社会・文化も学びたかった」、「名前や事柄を暗記するテストではなく、時代背景なども考慮したテストなら考えながら学べたと思う」といった反省を書いてくれた学生達の存在は、そのことを示している。その中には「世界史が嫌いだった」と回答した者も含まれている。

こうした「世界史嫌い」であった学生は、「文系」「理系」を問わず、毎年、相当数存在する。今年度の調査では世界史履修者 110 名のうちの約 4 割が「嫌いだった」と答えた。しかし、彼らは必ずしも、歴史ないし歴史学への興味を失った訳ではないのである。筆者の講義を受講した理由（質問 10）で、①（内容に興味があったから）を選んだ学生は、高校で世界史を履修していた学生全体の 61.8% に当たる 68 名であるが、その中には質問 4 で③（どちらかといえば嫌いだった）を選んだ 18 名と④（嫌いだった）を選んだ 1 名とが含まれている。アンケート結果を見る限りで、少なからぬ学生が、試験のために暗記するという形ではない歴史の学習に関心を持っている。それはまさに「主体的・対話的で深い学び」にもつながるものではないか。

確かに、「歴史を考えるとはどういうことか」と問う質問 13 に対する回答の多くは、歴史的事実の因果関係や背景を考えるとといった、形式的でありふれたイメージのものである（しかもそれは必ずしも本来的な意味で歴史を考えることではない）。しかし、それは結局、そうしたイメージの裏返しであるような歴史の授業、即ち何人もの学生が書いているように、「試験のために覚える歴史」の授業を彼らが高等学校で経験してきたためであろう。もっとも、そうした学生達に実際に大学の授業で「考える」ことをしたかと問えば、76.4% の学生から否定的な回答が返ってきてはいるのであるが、少なくとも筆者の授業では、単に試験のために用語・事項を暗記するということはなかったはずである。今後も、公立・私立を問わず、大半の高等学校のカリキュラムは大学入試を前提とせざるを得ず、その中で試験に合格するための歴史学習がなくなることはないであろう。しかしそれでも、新たな歴史科目の導入が、高等学校における歴史教育のあり方を見直す機運へとつながることを願う。

V. おわりに

アンケートの結果から、元高校生である大学生の目を通して高等学校の世界史教育の現状を検討すると共に、彼ら学生が大学における歴史教育に何を求め、あるいは期待するのかを考えてみた。学生達が大学の歴史教育に求めるものは多様であろうが、少なくとも、試験のために覚えるのではなく自分の関心に応じて学び、考えることのできる歴史が求められていることは、アンケートに記された彼らの声から拾える。そして、そうした学びの希望を持つ者が、人文学部で歴史を学ぶ学生といった限定的な範囲にではなく、より広く各学部が存在していることは心強い。

さらに、高等学校で世界史を履修しなかったと回答した 31 名の学生達の中に、質問 18・19 への回答で、世界史を学んでおけばよかったと感じた経験があると言及している者が、複数いることにも目を向けたい。彼らの多くが「感じたこと」は、歴史を知っていれば、小説やテレビ番組の内容がより理解できるであろうといった他愛のないものである。しかし、大学受験というシステムの中で歴史教育から切り離されてしまった者（実際には世界史を履修していた場合でも、本人としては「未履修」であると誤認するほどに、高等学校の歴史教育の結果は学生自身に認識されていないのであるから）が、大学で少しでも歴史学に関心を持てるのなら、我々大学の教員もそうした学生を念頭に授業を（殊に教養教育については）組み立てていく必要がある。歴史総合の導入によって、高等学校の歴史教育がどのように変わり、それが大学の歴史教育にどのように影響するか、未知の部分は少なくない。しかしながら、我々大学に籍を置く歴史学の教員は、今後、高等学校で学んでいるはずの歴史の知識を踏まえた授業をするということについては、慎重にならざるを得ないであろう。

文献

- 君島和彦 (2018):「新科目『歴史総合』とどう向き合うか」『地歴・公民資料』86 号, 実教出版 (<http://www.jikkyo.co.jp/download/detail/29/9992999265>) (2019 年 6 月 3 日ダウンロード)
- 徳橋曜・小林真 (2016):「高等学校の世界史教育と大学の歴史学—歴史教育の接続の観点から—」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究』, 第 11 号, 143-157 頁
- 徳橋曜 (2017):「世界史教育の方向性と大学教育:『歴史総合』の新設を展望して」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究』, 第 12 号, 149-160 頁
- 徳橋曜 (2018):「高等学校における歴史教育の状況: 学生アンケートから」『富山大学人間発達科学研究実践

総合センター紀要 教育実践研究』, 第 13 号, 119-132 頁

日本学術会議 (2016): 『『歴史総合』に期待されるもの』 (<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t228-2.pdf>) (2017 年 8 月 15 日最終閲覧・ダウンロード)

桃木至朗 (2009): 『わかる歴史・面白い歴史・役に立つ歴史』, 大阪大学出版会

文部科学省 (2018): 『高等学校学習指導要領比較対照表【地理歴史】』 (http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407085_3.pdf) (2018 年 8 月 29 日最終閲覧・ダウンロード)

文部科学省中央教育審議会 (2016a): 『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)』 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) (2017 年 8 月 20 日最終閲覧・

ダウンロード)

註

- 1 文部科学省中央教育審議会 (2016), 132 頁以下。
- 2 文部科学省 (2018)。
- 3 君島和彦 (2018) 13-15 頁。
- 4 徳橋曜・小林真 (2016); 徳橋曜 (2017); 徳橋曜 (2018)。
- 5 富山大学平成 31 年度入学者選抜要項 (<https://www.u-toyama.ac.jp/e-book/admiss-h31senbatsu/html5.html#page=1>) (2019 年 8 月 30 日最終閲覧)
- 6 医学部と都市デザイン学部については, それぞれ回答者が 1 名であるため, ここでの比較対象としない。
- 7 文部科学省 (2018), 17 頁。
- 8 桃木至朗 (2009), 23-24 頁。
- 9 日本学術会議 (2016)。

(2019 年 9 月 2 日受付)

(2019 年 10 月 2 日受理)

資料 実施したアンケートの項目

※文面の体裁は一部変えてある

高校と大学の世界史・外国史教育に関するアンケート(2019 年前期)

このアンケートは高校における世界史教育と大学における歴史教育のあり方を考察する研究の資料として行うものです。このアンケートから得た情報は、所与の目的以外には一切使用しません。また個人が特定されることはありません。

質問には番号に○をつけて回答して下さい。また一部の質問には記述で回答して下さい。

1a) あなたの現在の学年は？ ① 1年生 ② 2年生 ③ 3年生 ④ 4年生以上

1b) あなたの学部は？ ①人文学部 ②人間発達科学部 ③経済学部 ④理学部 ⑤工学部
⑥医学部 ⑦薬学部 ⑧芸術文化学部 ⑨都市デザイン学部

2) 高校で世界史を履修しましたか？ ① した → 質問3～15へ
② しなかった → 質問16～19へ

以下の質問3～15には、質問2で①と回答した人が答えて下さい。

3) 高校での世界史の履修事情について

3-a) 高校の何年次に履修しましたか？

① 1年生の1年間 ② 1～2年生の2年間 ③ 2年生の1年間
④ 2～3年生の2年間 ⑤ 3年生の1年間 ⑥ 1～3年生の3年間 ⑦ それ以外

3-b) 履修したのは世界史AですかBですか？

① 世界史A ② 世界史B ③ AかBか分からない ④ その他 ()

3-c) どのような内容でしたか？

① 古代から近現代まで網羅的に学習した ② 前近代(18世紀まで)を主に学習した
③ 近現代(19世紀以降)を主に学習した

4) 高校時代、世界史という科目が好きでしたか？

① 好きだった ② どちらかといえば好きだった → 質問5へ
③ どちらかといえば嫌いだった ④ 嫌いだった → 質問6へ

5) 質問4で①ないし②と回答した人にうかがいます。好きだった主たる理由は何ですか？

① 内容が面白かったから ② 内容に特に興味はなかったが、試験では点数が取れたから
③ 先生の個性や授業の進め方が自分に合ったから

6) 質問4で③ないし④と回答した人にうかがいます。嫌いだった主たる理由は何ですか？

① 内容に興味が持てなかったから ② 覚えることが多くて面倒だったから
③ 先生の個性や授業の進め方が自分に合わなかったから

7) 大学入試センター試験で世界史(AあるいはB)を受験しましたか？

① した → 質問8へ ② しなかった → 質問9へ

8) 質問 7 で①と回答した人にうかがいます。世界史を受験した理由は何ですか？

- ① 世界史が得意だった（あるいは試験で点数が取れると期待できた）から
- ② 高校での履修の都合上、世界史を受験科目に選択せざるを得なかったから
- ③ その他

9) 質問 7 で②と回答した人にうかがいます。世界史を受験しなかった理由は何ですか？

- ① 世界史が苦手だった（あるいは試験で点数が取れないと予想した）から
- ② 世界史は苦手ではなかったが、より点数が取れると期待できる科目が他にあったから
- ③ 世界史を受験する必要がなかったから
- ④ その他

10) あなたはなぜこの講義を受講したのですか？（主たる理由を一つ選んで下さい）

- ① 内容に興味があったから
- ② 興味はないが、履修する必要があったから
- ③ 興味はないが、簡単に単位が取れそうだったと思ったから
- ④ その他

11) この講義を受講して、高校で世界史を学んだことが役に立ったと感じたことはありますか？

- ① ある → どんな点でか、具体的に
- ② ない

12) この講義は、高校までの世界史教育とつながっていると思いますか？

- ① 思う → どのような点でか、具体的に
- ② 思わない → その理由を具体的に

13) 次期学習指導要領が「主体的・対話的で深い学び」を重点と位置づけているように、大学を含めた学校教育において、「覚える」ことではなく「考える」ことが重視されています。では高校や大学の授業で、「歴史を覚える」のではなく「歴史を考える」とは具体的にどうすることだと思いますか？（自由記述）

14) あなたはこの講義で、提示された情報や資料から「考える」ことをしましたか？

- ① した → 具体的に
- ② しなかった

15) 自分の過去の世界史学習を振り返って、もっとこういう点を学びたかった、あるいはもっと積極的に学ぶべきだったと思うことはありますか？

- ① ある → 具体的に
- ② ない

質問 2 で①と回答した人は、以上で回答終わりです。ご協力ありがとうございました。

以下の質問 16～19 には、質問 2 で②と回答した人が答えて下さい。

16) 高校で歴史関係の科目を履修しましたか？

- ① 日本史を履修した
- ② 歴史関係の科目は全く履修しなかった

17) 高校以外の場（予備校等）で世界史を履修しましたか？

- ① した
- ② しない

18) 大学の講義を受講して、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはありますか？

- ① ある → 具体的には？
- ② ない

19) 大学の講義以外の機会、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはありますか？

- ① ある → 具体的には？
- ② ない

質問 2 で②と回答した人は、以上で回答終わりです。ご協力ありがとうございました。